



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン・パレスチナ：ヒズブッラーと距離を取り出したハマース

(報道取り纏め)

レバノンのヒズブッラーがシリア内戦に関与したことに対する、アラブ世界あるいはスンニ派からの非難が増大している。こうした中、ヒズブッラーとハマースの関係も悪化している。

6月17日、ハマースは、ヒズブッラーにシリアからの撤退を求める声明を発出した。シリア内戦への対応をめぐり両者の間に相違があることは報道されていたが、ハマースが公式にヒズブッラーにシリアからの撤退を求めたのはこれが初めてである。

両者の関係について、6月5日、ガザのハマース幹部アフマド・ユーセフが、アラブ・メディアとの会見で、ヒズブッラーにシリア内戦に関与しないよう忠告したと述べている。同人は、ハマースとヒズブッラー、イランの関係は以前の関係には戻らないとも発言している。ハマース内部には、ヒズブッラー、イランと良好な関係を維持することを求める声もあるとの報道がある。6月14日、ガザのハニーヤ「首相」は、金曜礼拝の際、ハマースについて在外あるいは在ガザとの表現があるが、これは妄想にすぎない、ハマースは一つの精神を共有する、団結した抵抗運動であると述べた。同発言は、内部の意見対立を反映したものとの報道がある。

ハマースは、シリア内戦が激化した後、シリア国民を支持する立場を取り、在外ハマース関係者らは、2011年末から2012年春頃にダマスカスを離れている。

(中島主席研究員)